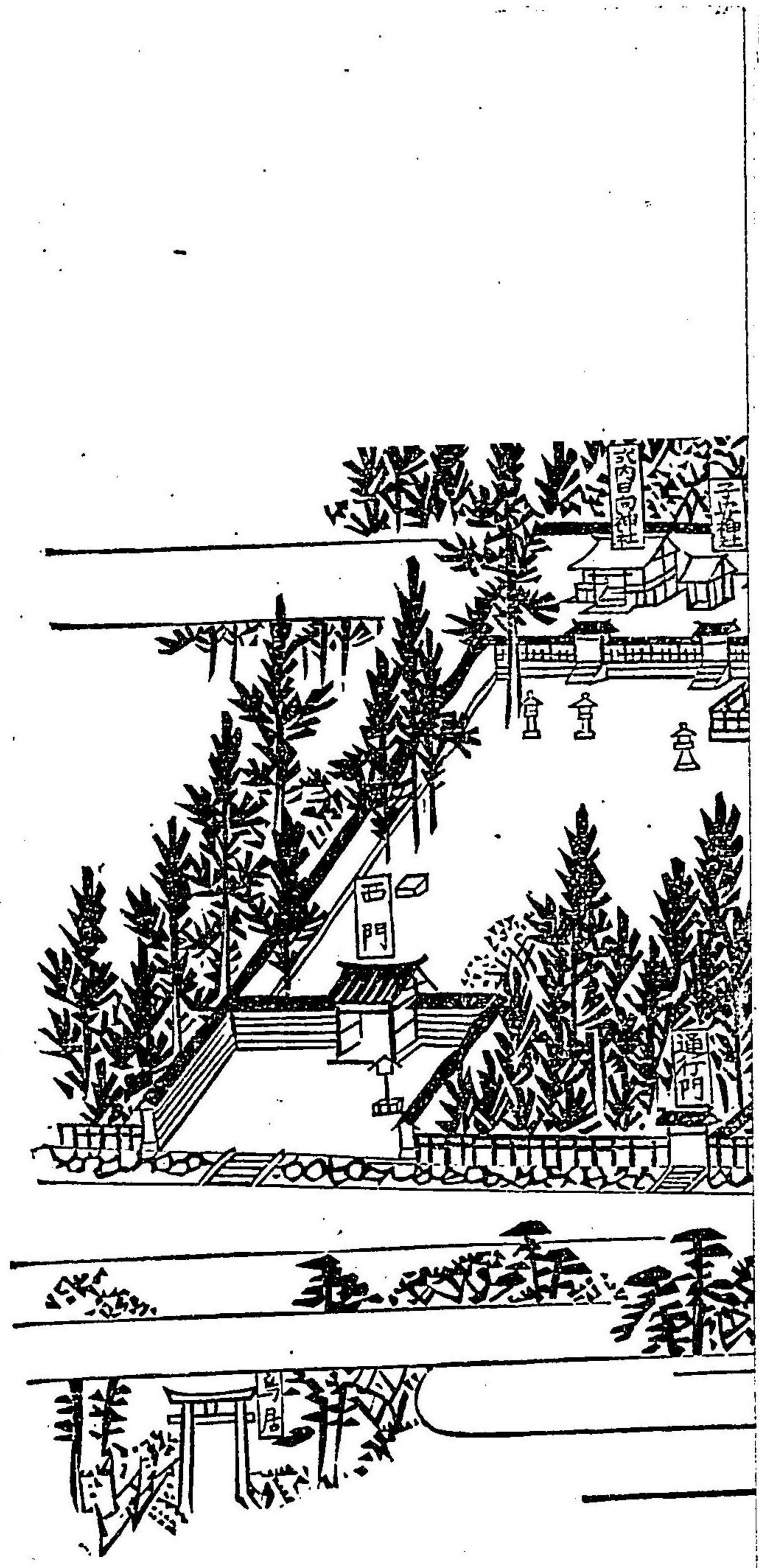


K-54

多賀神社縁起考抄



淡海國
多賀座

多賀神社全圖

子字振

多賀乃

海

乃如

乃繩

乃之

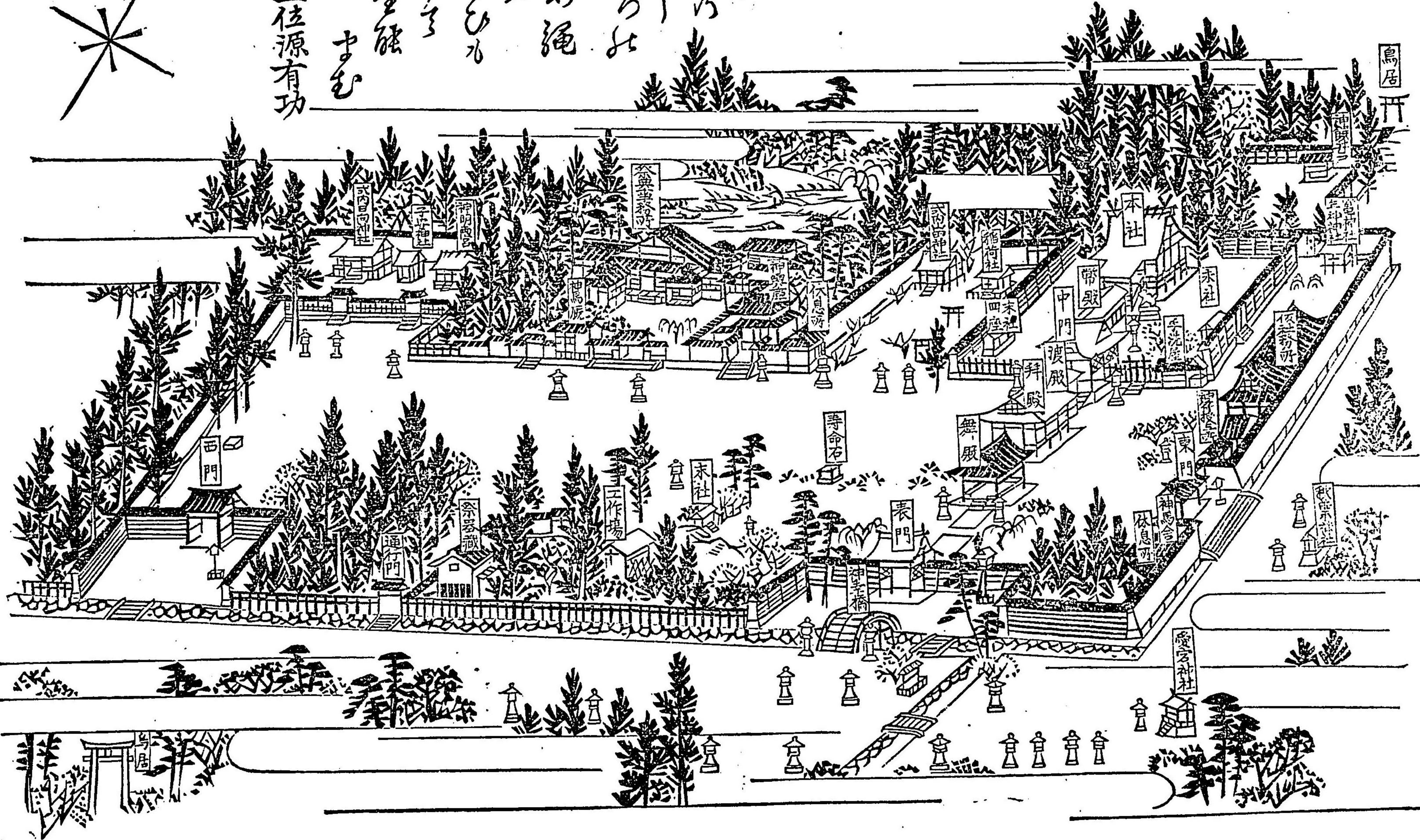
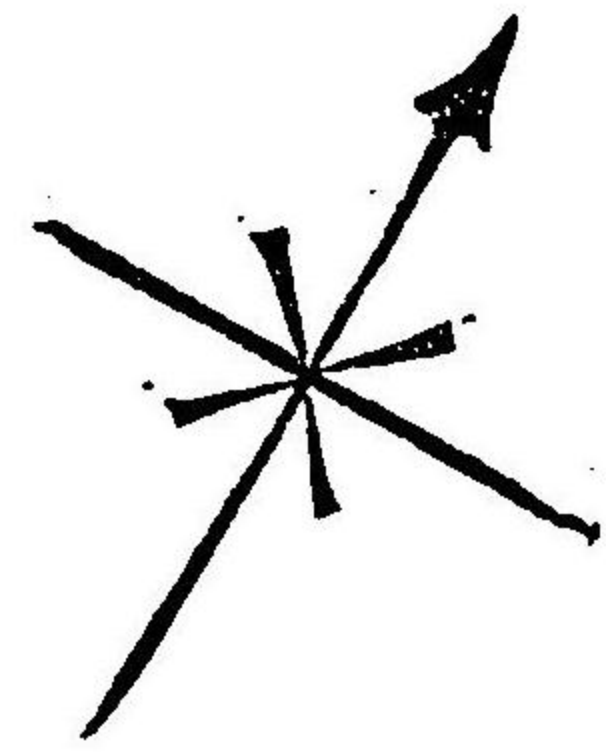
乃之

乃之

乃之

乃之

正三位源有功



鳥居

愛宕神社

№ 23928 / 22



多賀神社縁起考抄

○近淡海國犬上郡田鹿大社ハ

延喜式神名帳曰

近江國犬上郡多何神社二座トアリ

祭神 伊奘諾尊 伊奘册尊 社傳ノ本紀ニ有之

古事記曰

○故其伊邪那岐大神者坐淡海之多賀也

考ニ多賀神社ハ神代ノ舊跡ナルコト是ヲ以テ明ナリ

神社啓蒙額曰多賀大社

祭神 伊奘諾尊 一座



考ニ一座ト記セシハ古事記ノ傳ヘノミニ依リテ記セシモノナル可シ

先代舊事本紀曰

○伊弉諾尊功既至矣德亦大矣神功既畢登于天報命留宅於日之少宮復靈運當遷是以構幽宮於淡路洲寂然長隱亦坐淡海之多賀者矣

考ニ先代舊事本紀ハ偽書ナル由先哲ノ論スル所ナレト本文ノ傳説ハ日本書記ノ傳ヘト古事記ノ傳ヘト二書ノ真傳ヲ合併シテ誌センモノナレバ社傳本紀ノ旨ニモ符合ス最モ是ハ事實ノ証明ナルモノナレバナリ

○日本書紀曰

是後伊弉諾尊神功既畢靈運當遷是以構幽宮於

淡路之洲寂然長隱者矣亦

伊弉諾尊功既至矣德亦大矣於是登天報命仍留

宅於日之少宮矣少宮此云倭柯美野

考ニ伊弉那岐二柱神ハ竊冥ナル造化ノ元氣即チ之ヲ名稱シテ天之御中主神ト云此神氣陰陽ノ二氣トナリテ分判セル此真神ヲ名テ高皇產靈神皇靈產神ト云是造化三神ナリ此靈氣ナル元素ノ二精氣ガ是道靈トナリ其靈精ヲ授ケテ顯象ノ二神トナシ眞体ヲ化成シテ男女ノ形ヲ具備シ給ヒ陽陰二柱ノ神トナル則此神天地神人ヲ始メ萬物形象シ給フ是レ即チ伊弉那岐命伊弉那美命ニマシマシテ群生萬業ノ大祖ナリ是チ古事記ノ文言ニハ
於是天神諸命以詔伊弉那岐命伊弉那美命二柱神修理國成是多陀用幣流之國賜天沼矛而言依賜也トナモ談

話傳へタルモノナリ
 是ヲ以テ日本書紀ノ傳へニモ
 其伊邪那岐大神ノ大神業修理固成ノ功績ヲ事竟へ
 給ヒテ天神ノ御許ニ報命シ給フ即チ此時高天原ニ參
 登リ給ハム期ニ至リテモト此淡路洲ハ先ニ大八洲ノ
 國洲亦島々ヲ生ニ給ヒシ其始メノ期ニ國ノ胞トナシ
 テ事始メ給ヒシ元因モアルニヨリテ即チ此淡路ノ國
 幽宮ノ神跡ヲ遺シ給ヒ顯體ノ任隨ニ此現國ヲ隱
 後此大イナル功績ニ依テ登リ座ヲ天神ニ報命シ玉ヒ然
 日ノ若宮ニ留リ永久ニ住給ヒヌル事ヲ談話傳へシチ
 日本書紀ニ記ルサセ玉フ文ナルベシ平田大人ノ古史
 傳ニ合セ見ル可シ亦日本書紀ノ文体ノ二説ニ傳ハリ
 シチ以テ思ヒ合セ考フ可シ

社傳本紀四卷曰

社傳本紀今ハ亡シ社記
 錄諸書ニ依リ之ヲ校ス

○太地岫降淡路田鹿後遷淡海國田鹿宮自是以淡
 道宮爲天之往還以淡海宮爲地之往還矣

考ニ太地岫降淡路ノ田鹿トハ初發天神ノ命ニ依リテ
 天乃浮橋ニ乘ラシテ始メ彼ノ自凝島ニ天降座ヲ八尋
 殿ヲ化立テ共ニ住玉ヒ國土ヲ生成シ玉ヒシニ先淡路
 國ヲ最初ニハ生成シ玉フ是ヲ以テ其淡路ノ田鹿ニ天
 降リ座ストオホラカニ申シ傳ヘシモノナルベシ
 後遷ニ淡海國田鹿宮トハ初發ニハ淡路洲ニ天降リ座
 坐テ然後近江國ノ田鹿ノ宮ニ遷住給ヒ萬ノ國土ヲ始
 メ萬物ヲ生成シ給ヒシトノ古傳ノ事實ヲ傳ヘシモノ
 ナルベシ
 自是以淡道宮爲天往還以淡海宮爲地往還矣トハ此
 文ヲ受ケテ自是以後ニハ云々ト連續シタル文ナリ淡
 道ノ宮ヲ以テ天ノ往還トナシ淡海宮ヲ以テ地ノ往還

トナストハ抑大御神ノ此天地ノ間ニ其大御靈魂ヲ往
 還シ給ヒテ天地萬物ニ靈魂ヲ賦與シ群生生命ヲ主宰シ
 生成繁殖ノ道ヲ司宰シテ人倫ノ大道ヲ始メ給フ事等
 ハ衆人ノ能知ル所ナリ是故ニ其大御靈魂ヲ此天地ノ
 間ニ往還シ給ハムニハ先淡道之洲ノ幽宮ヲ以テ高天
 原ヨリ天降リ給ハム期ノ宮殿ト定メ給ヒ天ノ往還ノ
 宮トナシ亦然シテ後ニ此石走ノ淡海國ノ田鹿宮ヲ以
 テ地球上ニ留リ住ミ給フ地ノ往還ノ宮ト爲シ幽政ノ
 大神業ヲ爲シ賜フベキ堅石常磐ニ陽ノ大宮所ト定メ
 給ヒテ天下衆庶ノ生命與奪ヲ主宰シ萬物ヲ撫育シ生
 殖榮昌ノ利益幸福ヲ守護リ賜フ故ニ天下萬民皆此近
 江國多賀ノ大御神ヲ深ク尊崇セザルハナク將又此大
 御神ノ大御靈魂ノ高天原ナル本宮日之少宮ニ還御往
 還座ニ坐サムト思食ス期ニハ即淡路ノ幽宮ヲ以テ隱
 宮トナシ高天原ニ往還成シ賜フベキ料ト爲シ給ハム
 御掟ナルベキ故ニ之ヲ天ノ往還ノ宮ト云ヒ亦近江宮

ナ地ノ往還ノ宮トモ謂フナルベシ
 此古傳ハ紀記ニ典ニモ傳ハラズ亦外ニモ傳ヘナキ事
 實ニ當神社本紀ニ傳ハレハ誠ニ尊キ事ナルベシ

同紀曰

○高宮。太宮。多賀大社

○天地祖皇大神宮ト云

何レモタガト稱ス

- 田鹿 多何
- 陀可 田可
- 陀我 田加
- 田賀 多賀
- 高 多柯

以上清濁通用古語

社傳本紀曰

崇神天皇七年十一月丁卯陀可之地創祠矣

活目入彥五十狹茅天皇垂仁二十五年十二月天

照太神奉神請移皇大神左太殿太宮初齋宗廟神

矣

同紀曰

反正天皇三年春二月木菟臣五瀨奉詔檢乎降監

地云々

同紀曰

人皇二十三代

清寧天皇田鹿宮伴神社ヲ與群臣論定二十社

傳曰

元正天皇御腦膈噎被爲在御平愈ニテ御寶筭御

延長ノ御祈願被爲籠御應驗炳明云々

元弘三年四月十九日此日例祭日午ノ日ナリ

後醍醐天皇第五宮大塔宮護良親王御令旨ヲ以

テ朝敵北條六波羅兩方追討御祈願全五月九日

番場村辻堂ニ滅亡同十四日宮ノ命旨ヲ以テ多

賀庄半分地ヲ御寄附古文書今ニ存ス

淡海地志 十二卷

龔考曰

淡海國多賀大明神

飯井宮 本宮ノ稱號ナルベシ

一殿 禮道主 本宮ノ中座ヲ稱ス

二殿 皇極主 本宮ノ右傍ノ座ヲ稱ス

三殿 樂道主 本宮ノ左傍ノ座ヲ稱ス

此神不立難皇道立榮奉宗既

考ニ此三御殿ハ多賀大社本宮ノ稱號ナルベシ

初御殿 猿太彦大神 本宮中座ノ祭神也

供御大祭祭寶大祭 神樂宗廟大祭 同上

次御殿 磐余彦大神 本宮右傍座ノ祭神也

天鈿女大神 同上

次五社 地神五代大神 本宮左傍座ノ祭神ナリ

供 大祭

考ニ此祭神ノ座配ハ本社三宮ノ祭神ヲ記シナルベシ
地神五代ノ大神トハ天照皇大御神天忍穗耳尊天津日
高彥火之瓊々杵尊彥火々出見尊鵜葺草葺不合尊五柱
神ナルベシ垂仁帝ノ時ノ舊記ニ天照皇大神ノ神ノ請
シヲ奉シテ皇太神ヲ左ノ大殿ニ移ストアルモ太宮ニ
始テ宗廟神ヲ齋トハ此大神等ヲ齋祀リシ期ノヲ云
フナル可シ

次諸末社

御傍岡社

五前大神

賢木浦社

五前

本宮左傍祭神ノ
所属ノ祭神ナリ

樂神

五調五神

此五神者三御殿伴神社ナリ

御鹽浦社

五前五祠

中國庶首神

南國庶首神

此祭神ハ國津神ノ遠津祖
神等ヲ祀リシナルベシ

北國庶首神

東國庶首神

西國庶首神無之ハ書洩レナルベシ本紀

ニ漏ル依補之

此五社者一御殿之伴神社也

本宮中座祭神ノ所属ノ祭神也

向東崎社

五前大神 本宮右傍座
祭神ノ所属ノ祭神ナリ

真道見命神

宇麻志真道命ナリ
饒速火神ノ子

天隱山命

天香山命ナリ
イシコリトメノミコトナリ

道臣命

ミナノナミノミコトナリ

椎根津命神

椎根津彦命ナリ

八咫鳥神

鳴建角見命ナリ

此五神者二ノ御殿之伴神社也

已上二十社 田鹿宮伴神ナリ

人皇二十三代清寧天皇與群臣論定二十社癸ト
アリ

當時分置跡

攝社延喜式内

山田神社 野田山ニ在リ

祭神 猿田彦命

全

日向神社 多賀大社ノ西ノ方森中ニアリ

祭神 天津日子火之瓊々杵尊

末社

神明両宮 日向神社ノ傍ニアリ

千代神社 彦根ニアリ今ハ古澤村ニ移ス

祭神 天宇豆賣命

兒 宮 青龍山ノ麓ニ在リ今ハ敏満寺村胡
宮神社是ナリ

祭神 事勝國勝長狹神

大瀧神社 犬頭山ノ麓ニアリ今富ノ尾村大瀧
神社是也

祭神 高麗神 全末社ニ犬上ノ神アリ

高松神社 八重練村ニアリ

祭神 須佐之男命

本宮ノ別宮

例年四月廿二日大神事ニハ神輿行幸ノ式アリテ祭典嚴重ナリ

栗栖調宮

栗栖村ニ在リ

祭神 伊邪那岐大御神

都惠神社 竹ヶ鼻村ニアリ

祭神 岐神

國府君神社 高宮村犬上川ノ川端字寶臺川原ニアリ

祭神 不詳 大祭典ニハ此處ニテ古式アリ

鑰取神社

祭神 楫取經津主神

祖母神社 二社トモ打籠ノ芝生ニアリ

祭神 大山祇神

子安神社 日向神社境内別社

祭神 木之花之咲哉比賣命

三宮 本宮ノ傍ニ在リ

祭神 可尋

聖宮 本宮ノ傍ニ在リ

祭神 少彦名命

竈神社 本宮ノ東方ニアリ

祭神 瀧津彦神、瀧津姫神、忌火神

大歳神社 全所ニアリ

祭神 大歳神

天神々社 本宮ノ西傍ニアリ

祭神 天津神

熊野神社

新宮

夷神社

祭神 八重積羽言代主命

天満天神々社 境内ニ有之

稻荷神社 全

受宍神社 全

秋葉神社

全

若宮

東八丁山下麓ニアリ 清泉アリ

以上

神跡 舊跡

靈山 御山 龍池アリ

神洞 河内村ノ山腹ニアリ 神内ノ殿室ト云

杉阪 神代鋒杉ト云アリ

伊邪哉川 中瀬コテハ久徳川ト云フ下ニテハ善利川ト云此川ヨリ自然陰陽石ヲ出ス

床ノ山 鳥籠ノ山トモ記ス

岡本ノ太上天皇御製 萬葉集 四二

淡海路の岨これ山なるいざや川

氣れころくは戀ひつゝもあらま

垂村

飯盛山 垂村ノ傍ニアリ

大天子村膳夫 多賀神社ノ神饌方ナルヲ以テ
名ノ家アリ

飯盛水 全所ニニ處アリ

栗栖ノ里

富ノ木

犬上川

栗栖調宮神山ニアリ
多賀神社四月二十二日ノ大神事神輿渡御ノ式
ニ此枝ヲ採リテ挿トス故ニカツラノ木ト云フ
高宮驛ニ橋アリ

近淡海國犬上郡多賀大社ハ天地皇大神宮ト
稱シ奉リ天照皇大御神ノ御父母神ニマシマ
シテ天神地祇八百萬神ヲ産ミ給ヒ天下萬民
ノ大祖神ニシテ世ノ中ノ萬ノ事業ハ悉皆此
大神ノ事始メ給ヒ萬物ノ生命ヲ司掌リ與奪
ノ權ヲ主宰シ玉ヒ生成繁殖ノ道ヲ守護給ヒ
人民ノ壽命ヲ守幸福給フ其神威ノ莫大ナル
神德ノ驗明ナル天地ニ充滿テ少モ關クル所
無キカ故ニ古昔ヨリ朝廷ヲ始メ奉リ下蒼生
庶民ニ到ル迄遍ク尊崇敬恭ヲ盡シ無量ノ德

益ヲ蒙リ人生ノ幸福ヲ祈リ日夜恩頼ヲ蒙リ
奉レハ其神徳ノ鴻恩ヲ報酬シ奉ルヘキモノ
ナリ

貳拾貳

明治廿二年十二月十日印刷
全 年十一月廿五日出版

著者兼
發行者
印刷者

近江國犬上郡多賀村
貳拾九番屋敷士族
大 口 祀 善
京都市下京區新京極通鴨藥師
下ル東側町三拾七番戶平民
太 田 權 七

神の恵みと誓ひ

の大神のめぐみなるべし



近江路や多賀の宮居よ玉玉禰掛掛祈祈長長命命
を

皆 息内 知看ス

人みなを命をふらむ神なれば誰かたのまむ多賀の宮居を

元因 所謂

世の中ハ何につけても神の代のもやのいたれ汝知れよ我子供ら

並座

二えしらならひて居まは天地の御祖親の神ハ多賀のまめ神皇

産靈

産靈

伊邪那岐美

御靈魂

知

神むすひ高むむすひの神こそいさの御神乃きたはといし世

在 生

世の中ふらりとあれ出る物こないいさの神より始るをし世

生世いつるえしめ汝らば人はいさ多賀の御神汝仰おほらめや

大君乃天日嗣も其もとハ多賀の御神の定めたまへる

こそらゆく月日乃神も二柱多賀の御神のうみほせる神産三座

二柱はらにおやの神をいそひ來し多賀の宮居を人ハしらひや

天地の中にあらゆる人みなハ多賀の御神の恵みをせよ

己おの身みをいかになむるやをひて見よとなあ大神のめをなむるべし

成 問

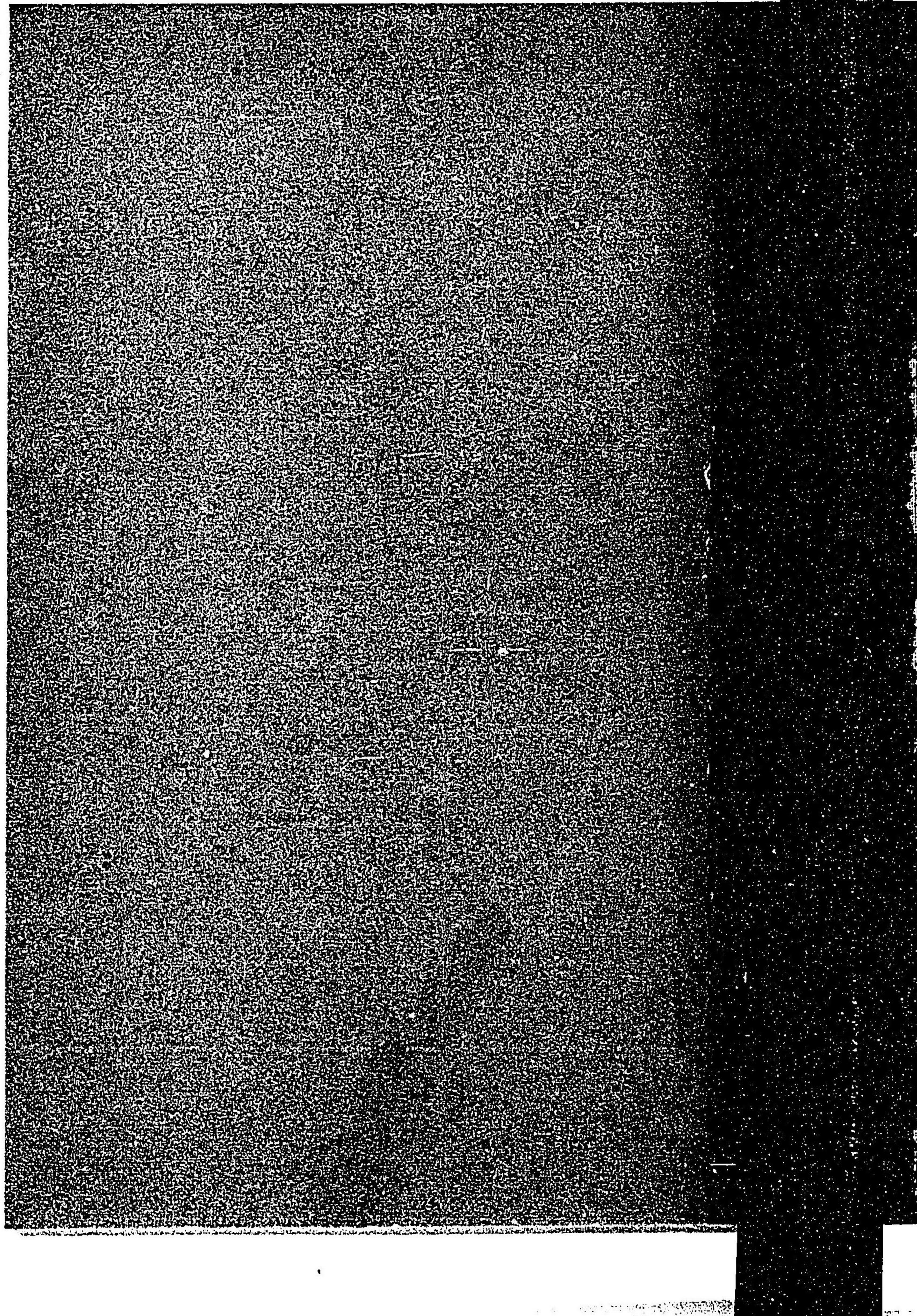
ああの神かのここかけを廣ひろき天地あつちにみちくたるぞおほ大きおほめをこ

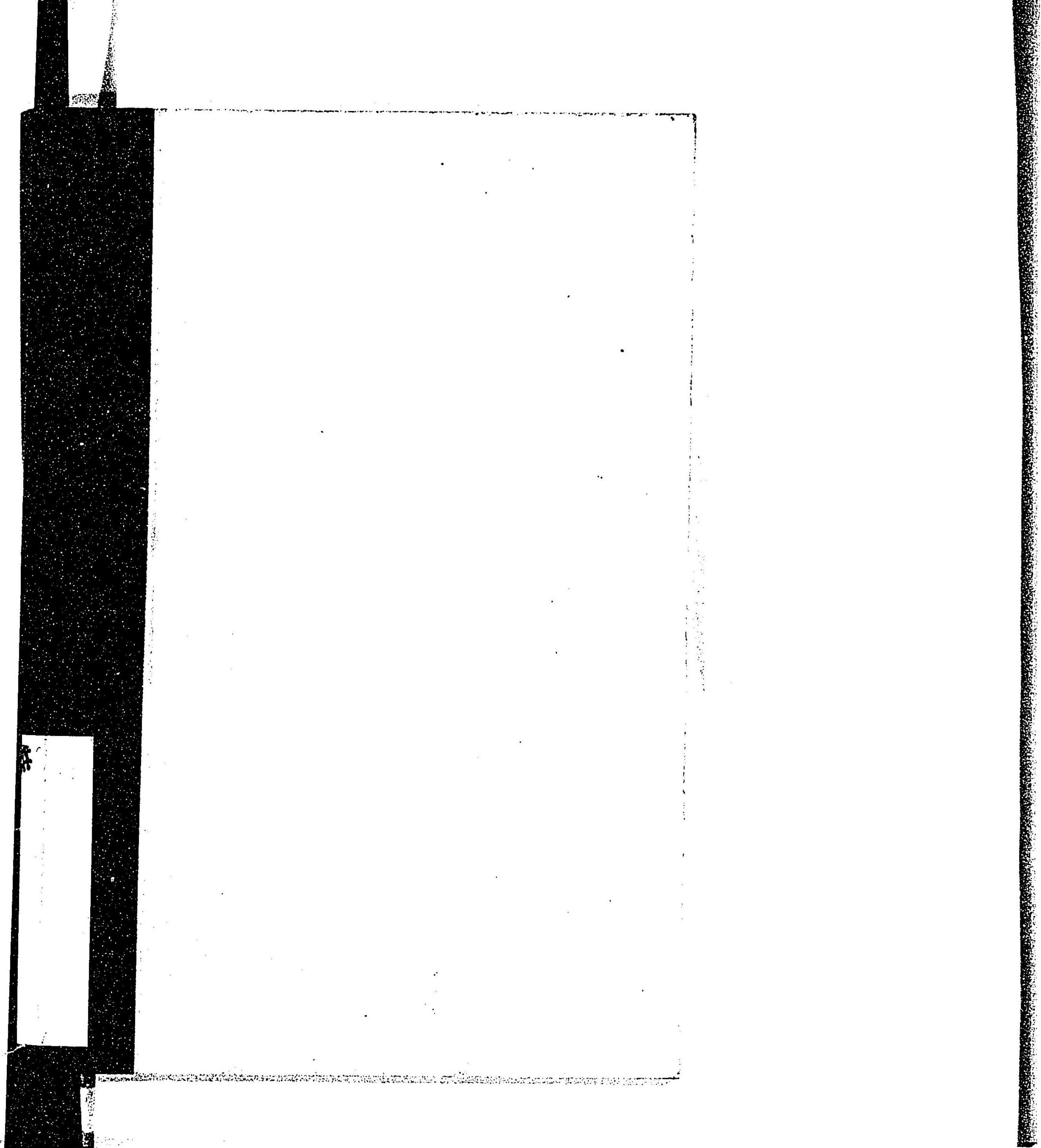
世の中に人と生じてああの神か御おんかけを知らは神ならへ子ら習

天地あつちの神か祖おやの神か代より近江あきの多賀たがにまつまりあはる

天地あつちの神か祖おやの神か代より近江あきの多賀たがにまつまりあはる

K-50





特49

390

多賀神社縁起考抄

国立国会図書館

014376-000-7

特49-390

多賀神社縁起考抄

大口 祀善/著

M22

ABB-0732



